

2017年5月度 ゴルフ市場活性化委員会（GMAC）議事要旨

日時：5月19日（木） 10時～12時

場所：経済産業省 別館会議室

出席：24名（JGGA、NGK、PGS、JGJA、PGA、有識者、経済産業省、ゴルフダイジェスト、リクルート、楽天、日本旅行、ゴルフネットワーク）

司会：手塚副委員長

議事録：NGK

1. 開会挨拶

馬場委員長より、経済産業省に会場提供の謝辞が延べられた。平成29年度GMAC活動方針について、若年層の活性化策、スポーツ庁の政策、ゴルフ環境の変化等を踏まえ、コンセンサスが得られるよう色々と議論を重ねて欲しいとの挨拶があった。

2. パナソニック(株)からのプレゼンテーション

パナソニックがテクノロジーとの融合による新たなスポーツの楽しみ方としてゴルフトーナメント会場で行った、「非接触バイタルセンシング」「マルチ動画配信システム」「場内WiFi映像配信システム」の実証実験の報告があり、ゴルフ活性化のアイテムとして活用できないか意見交換を行った。

「ゴルフ普及がGMACのテーマであるため、観戦者以外のノンゴルファーに興味を持って貰うための活用方法」「選手のバイタル値を蓄積してスポーツ人口拡大に役立てられないか」等の意見が出された。

3. 報告・検討事項

(1) 「大学のゴルフ授業」の充実を目指した産学連携について

北委員欠席の為、大石委員より資料に基づき説明があった。

1. 2017年前期の「Gちゃれ」スケジュール ※丸数字は累計開催回数

⑨5/28(日)GMG 八王子G ⑩6/4(日)八王子CC ⑪8/3(木)八王子CC ⑫8/4(金)有馬CC
⑬8/4(金)八王子CC ⑭8/7(月)八王子CC ⑮8/8(火)八王子CC ⑯8/17(木)GMG 八王子G
⑰8/21(月)東我孫子CC ⑱8/23(水)高坂CC

- ・日程調整中 上野原CC(帝京科学大) 川崎国際生田緑地G(専修大)
- ・本年から、大学ゴルフ研究会が負担して「Gちゃれ」時には保険に加入。

2. 2017年度のJGGAからのクラブ無償提供の申請状況と受領報告について

- ・2016年度は30大学、2017年度は4月段階で20大学申請があり、10大学送付済み。
- ・2017年5/17現在 大学数38 大学授業 提供総クラブ本数1,231本（残733本）
提供クラブメーカー 16社
- ・受領大学からは、下記3点の報告してもらう。
 - ① 「喜びのコメント」(200字程度)と写真。
 - ② 授業終了後1カ月以内に、報告書を提出。
 - ③ 授業内で提供用具を使用した学生にWebアンケートを回答させること。

3. 6/6 武蔵野美術大学特別講師(PGA 井上副会長)による授業と懇親会開催

日程:2017年6/6(火) 時限:3限目(13:00～)及び4限目(14:40～)

4. 月刊ゴルフ用品界へのリレー掲載「我が大学のゴルフ授業」の経過と予定報告。

5. その他

複数の大学より「大学ゴルフ授業の産学連携」について問い合わせがあり、全国へ拡散に向けた動きが出だしている。

(2) ゴルフ関連団体及び企業からのゴルフ活性化施策の実施状況報告と提案

* 「ゴルフマジ」・・・リクルートライフスタイル

- ・会員登録数:4028名(19歳352名、20歳3,856名) 5/10現在
- ・施設利用数:2,857名(練習場2,662、ゴルフ場195) 5/10現在
- ・賛同施設数(第4期):ゴルフ場104コース、練習場181施設

賛同施設数が少ない原因は、練習場に追加収入が無いためであり、次年度に向けて収益が出る制度に見直すことを検討する。また、ゴルフ場については、練習場のみになっていることを改善するため、練習場とゴルフ場とのブリッジングを検討する。

* 「ゴルフスタートアッププロジェクト」・・・楽天

- ・アマチュアゴルフフェーズ選手権の誘客 5月分698名
- ・「楽ゴルフ」サービス利用状況 2017.1~4月累計
提供ゴルフ場264、総客数6,578 4,000クーポン付与数5,338・利用者2,058
提供練習場340、クーポン利用数2,241
- ・ゴルフ場4,000円クーポンの再考

特定の既存ゴルファー利用が大半(新規3%)であり、利用継続も回数を追うごとに低下する傾向にある。また、練習場クーポンは21~26歳中心だが、97%がゴルフ場でのプレーに繋がっていない。

よって、月間の4,000円クーポン付与を100名上限とし、年齢無制限の初心者ゴルフ応援クーポンを不定期に付与、新規に若者にリーチ出来る施策の追加実施。また、既存ゴルファー対策として、競技ゴルフの魅力を伝える、1人予約などあらゆるプレースタイルの支援、ゴルフの魅力を伝えるコンテンツマーケティングの展開を行う。

また、練習場において、楽ゴルデー(無料開放デー)「友達誘ってゴルフを始めよう」を開始する。

日時:7~9月、土日祝のいずれかの1日 仙台・東京・名古屋・岡山・福岡

目的:新規ゴルファー応援(初めての練習場)、ゴルフ場デビューアシスト

対象:18~29歳と同伴者のペア、1時間打席無料。

* 「ゴルフ場を地域と交流の場として活用した地方創生事業」・・・日本旅行

- ・「たびーら・スイーツ・ゴルフ」in 沖縄カヌチャ開催報告
- ・御殿場市でスポーツコミッションを設立し、ゴルフやサイクリングなど「たびーら」企画を連動していく予定。
- ・ニュージーランドにて来年4月に開催される「ゴールデンウォーリーズ」(35歳以上を対象とした10競技実施)の公式代理店となった。GMACに協力を頂きたい。

* 「ゴルフのたすきプロジェクト」・・・ゴルフネットワーク

4月から、初心者を知るノウハウをテーマとした番組の放映を開始した。

* 「ゴルフ場を地域との交流の場として活用した地方創生」・・・日本旅行・NGK

ゴルフのメジャー大会を契機とした『スポーツの街〇〇』とした地方創生(スポーツコミッションの設立)のモデル事業をNGKと日本旅行で構築中。夏以降に実施予定。

4. 各団体及び委員からの報告・連絡事項

JGGA JGFのプロモーション映像を制作、希望者には手配する。

PGS アマチュアゴルフフェーズ選手権 参加者数は、6月に報告。集客対策として採用したネット申込み、及びNGKとの連携による増加はみられるが、全体としては減少傾向にある。

5. 平成29年度活動方針の検討と進め方

事務局より以下の3点の基本前提に基づいた活動方針検討案が提示され、審議を行った。

【活動方針の前提】

- ① 日本ゴルフサミット会議方針との連動
- ② スポーツ庁の目指す「スポーツの成長産業化」を考慮

- ③ GMAC 活動方針「始めよう・続けよう・もつとゴルフを」から「早期リタイア防止」の取組み

【活動方針検討案】

- ① 若年層活性化 きっかけづくりと早期リタイア防止
（「大学ゴルフ授業」充実に向けた産学連携協定の推進を含む）
- ② 異業種とのコラボによる新ビジネスの創造
- ③ 地方自治体・地域産業とのコラボによる地域創生を通じてのゴルフ活性化
- ④ スポーツの成長産業化に資するゴルフの産業としての成長戦略立案

大石委員より、下記について意見が出された。

第1点 サミット会議の活動方針1は、「スポーツの成長産業化」との政策要素の内、スポーツ産業として対応可能な要素は含んで立案している。

第2点 活動方針検討案で示されている「日本ゴルフツーリズム推進協議会」との連携については、既にNGKとの連携活動が開始されていること、主にゴルフ場が主体となる事業のため、方針から除外頂きたい。また、ゴルフトーナメントを契機としたスポーツ振興に関しても、先に報告した通り、NGKと日本旅行とで既にスポーツコミッション創設まで視野に入れたモデル事業を立ち上げるために着手しており、10月には結果報告が出来る予定のため、除外頂きたい。（スポーツコミッション設立時にはGMACの協力は必要不可欠な事案）

この意見に対して平野事務局長より、次の意見が出された。

スポーツ庁より出されている政策は、全年齢層を対象にしたもので、サミット会議の中期ゴルフ振興目標である若年層だけにフォーカスしたものではないと考える。よって、若年層対策は既に動き出しているが、はたして一極集中で良いのか疑問である。全年代層について各々の対策を講じなければゴルフリタイアも続出し、ゴルフ産業は衰退するのではと心配がある。

続いて各委員から下記の意見が出された。

- ・ゴルフサミット会議の活動が一般に知られていない。
- ・人数が多いと発言しづらい、分科会を設置すべき。
- ・協力企業のもと若年層を作り出してきたが、現状フォローも無く、早期リタイアの問題もあるので、若い人が継続できる仕組み作りを構築する。
- ・若年層対策も良いが、子育て世代になるとリタイア傾向にある。それらの年代を引き戻すための施策も必要。
- ・ゴルフの楽しみ方は、「競技ゴルフ」と「レジャーゴルフ」に大別されるが、大半のゴルファーが後者であると考え。したがって、楽しむゴルフを提案し、その先にビジネスチャンスを模索していく。
- ・「はじめよう、続けよう、もつとゴルフを」GMAC基本方針であり、若年層に絞らず色々な切り口で各年代層にアプローチするべき。

【会議効率化・活発化のための「分科会」制の検討】

活動方針に即した検討分科会や、必要に応じた活動期間を区切ったタスクフォースを編成したらどうかとの観点から、事務局よりたたき台として次の案が提案された。

- ① 若年層活性化分科会 「チームY (Young)」
- ② コラボビジネス創造分科会 「チームC (Collaboration)」
- ③ 地方創生分科会 「チームL (Local creation)」
- ④ (スポーツ庁への)ゴルフ産業成長戦略 答申タスクフォース「チームR (Report)」

本案に対し、大石委員より下記の意見が出された。

各方面の課題について一斉展開は現状のゴルフ界では資金面も含めて無理があると考えるため、サミット会議の方針も対象年齢層を若年層に搾ったものとした。1企業の目標数値と違い、現場を持たないGMACとしては、あくまでも向かう方向性を提示す

ることまでが限界である。したがって、次の点に絞り込んだ活動を提案する。

① 「ゴルフ普及」の障壁の明確化

ゴルフ界の考え方とマーケット側の考え方の相違点を明確するとともに、ゴルフ団体の在り方も含めて議論を行い、「ゴルフ普及」の障壁は何かをゴルフ界全体に示す作業を行う。

② 異業種、地方自治体等とのコラボレーションによるモデル事業の立案

③ 若年層開拓の目標の徹底と 20 歳代ゴルファー定着施策の立案

何故、「20 歳代後半～30 歳代後半のゴルフ参加率 10%強」にしなければいけないのかゴルフ界に徹底する。また、「大学との産学連携」は締結され活動中だが、卒業後のフォロー体制が整っていない。この部分についてのモデル的な施策立案が必要。

以上の 3 点について、委員長、副委員長、及び参画する団体間の意見調整を行う 6～7 名の連絡会的な組織を先ず立ち上げて、参画意識を高める。

[以下フリートーキングで出された意見]

- ・企業レベルでは多数の活動がある。GMAC ではインプットは多いがアウトプットが少ない。影響力のある活動とするなら、GMAC 参画団体や企業、行政から出された施策や結果を基に更に内容を絞り込み明確な活動方針を打ち出した方が良い。
- ・基本ベースは継続するが、業界内だけの情報発信では弱い。ノンゴルファーへのアプローチは難しいため、ゴルフイメージアップに向けた情報発信が重要。
- ・GMAC 活動がゴルフ業界にどこまで浸透して実行に至っているのか疑問がある。儲かる仕組みを考えてはどうか。
- ・儲けるなど言わないが、GMAC では先行投資的な志が一つにならないといけない。
- ・企業からの参画では先行投資の理解が低いのではないか。GMAC の企画がどこまで世に知られているかは不明だが、結果が結びつくよう広報に力を入れていくことも大切。
- ・テーマは多いが実行部隊がないという現状であれば、プロフェッショナルボランティアをメディアも含めて企業内で募集したらどうか。ゴルフの持つポテンシャルは大きいので、ゴルフ産業の発展に貢献したいという人は集まると思う。
- ・変革を考えない方が多いと先に進まない。現状の競技団体中心の活動では、既成概念に縛られて新たな意見も出てこない。変革に向けた意見を持っているのは GMAC などの産業団体であるが、改革を実現するためには競技団体や支配人会等の長を同様の考え方に変更させなければならないし、その方が影響力もあると思われる。ここにゴルフ普及の障壁があるならば、考え方を変革する働き掛けも我々の仕事であると思う。ゴルフの既成概念を崩していかななくてはいけないと感じる。

6. その他

経済産業省サービス産業室 藤井室長より

1. 地域資源を活用したスポーツ施策は、地方創生から必要と考え、行政としても進めている内容なので分科会等で議論を進めて頂くと心強く思う。
2. 「日本サービス大賞」(内閣総理大臣表彰)の案内
本年も「日本サービス大賞」の募集を始めるため、応募の要請があった。

7. 今後の委員会開催日程

2017 年 6 月 15 日 (木) 10 時～12 時	於) ゴルフダイジェスト社
7 月 11 日 (火) 10 時～12 時	於) ゴルフダイジェスト社
8 月 22 日 (火) 10 時～12 時	於) ゴルフダイジェスト社
9 月 26 日 (火) 10 時～12 時	
10 月 25 日 (水) 10 時～12 時	

以上